

新 生

令和二年三月十日印刷
令和二年三月二十日発行

新生第七十二巻第一号



東北新生園入所者自治会

新 生

令和二年三月十日印刷
令和二年三月二十日発行

東北新生園の概況

所在地	宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢1番地
土地面積	351,291㎡
建物延面積	25,280㎡
開 園	昭和14年10月27日
医療法承認病床	244床
標榜診療科	内科、外科、皮膚科、眼科、耳鼻いんこう科、歯科
現在入所者数	男19名 女33名 計52名
職員定員数	152名（平成31年4月1日現在）
園 長	医学博士 横 田 隆

東北新生園交通案内図



第七十二巻第一号

宮城ハンセン協会招待
SENDAI光のページェント見学バス旅行
— 令和元年12月18日 —

車窓からの
イルミネーション
(仙台市定禅寺通り)



仙台を一望できるレストラン
で食事をしました

園内日誌

令和元年十月～十二月（敬称略）

【謝寄贈凶書欄】

十月

十一月

《十一月》

令和2年3月10日 印 刷
令和2年3月20日 発 行

〒989-4601



新生・第七十二巻第一号……………目次

表紙…「東北新生園と栗駒山」

年頭によせて……………	楓会会長……………	久保瑛二……………	(2)
イエペスの話……………	園長……………	横田孝隆……………	(4)
定年退職を迎えて……………	看護師……………	氏家孝子……………	(8)
ありがとうございました……………	准看護師……………	野村登美子……………	(10)
定年退職を迎えて……………	准看護師……………	菅原英子……………	(12)

|| 新生文芸 ||

詩……………	選者……………	佐々木洋一……………	(14)
短歌……………	選者……………	皆川二郎……………	(16)
俳句……………	選者……………	山田桃晃……………	(18)
川柳……………	選者……………	栗石隆子……………	(20)
退職を迎えて……………	看護助手……………	高橋よし子……………	(23)
ありがとうございました……………	看護助手……………	白鳥利江……………	(25)
定年退職にあたり……………	洗濯長等職員……………	石川和彦……………	(27)
四コマ漫画……………	……………	北村小蝶……………	(28)
園内日誌・謝寄贈図書……………	……………	……………	……………

年頭によせて

楓会会長 久保 瑛 二

謹んで令和二年の新春をお慶び申し上げます。旧年中は会員皆様をはじめ、多くの方々の暖かい御指導と御支援を頂き、会務を果たすことが出来ました事を心より御礼申し上げます。

新しい年を初めに、当園の先行きを考える時、入所者の数も減り現状は、六十人を割りこんだ年になりました。特に平均年齢においては八十八・一歳になり、療養所の取り組みと、当園の将来構想を見直す時が来たのでは、と新たな悩みを覚えております。

過去形になりますが、当園の将来構想計画については、平成十六年より可能性を積み上げる方式で、展望を開く道筋を示すことが出来るのかどうかの議論の中で、御承知のようにその一歩を踏み出してきました。時代も変わり、まだ残された課題も多くそれらの深刻な不安に駆られております。一方的な合理化対策を聞かされる今日、とりもなおさず医療機関として存続の方策として、将来構想解決の道を必死に模索しております。

時には代表として、言葉にして、当園の理念を口ずさんでおります。

“入所者一人ひとりの人権を尊重し、安心して安全な生活を送ること”を理念とし、

基本方針としては、特に次のことに意志統一をはかり、職員入所者共々に問題解決の為に日々

精査しております。

- 一、快適な療養・生活環境を提供します
- 二、安心で信頼される医療の充実に努めます
- 三、優しい看護と介護を提供します
- 四、ハンセン病の正しい知識の啓発普及に努めます
- 五、職員の教育・研修に努めます

さらに、当園では入所者の権利として

- ・ 人格を尊重される権利
- ・ 良質な医療を受ける権利
- ・ 十分な説明と情報を受ける権利
- ・ 自己決定の権利
- ・ プライバシーが保護される権利

以上が、東北新生園の「いのち」に対する要綱として足並みを揃えております。

昨年には当園も、八十年を迎えましたが、今年も多くの皆さんの御支援を切にお願いを申し上げます。新年の挨拶と致します。

イエペスの話

園長 横田 隆

ナルシソ・イエペスはスペインが生んだ偉大なギタリストです。もう亡くなってから何十年も経っていますが、私は中学生の頃からイエペスに注目しており、三年ごとに来日して行うコンサートによく聴きに行ったものでした。五、六回は行ったと思います。その思い出を今回、書いてみたいと思いました。(写真①)

イエペスを一躍有名にしたのは映画「禁じられた遊び」の音楽を担当したときからでした。あのもの悲しいメロディーに多くの人が惹きつけられ、それを契機にクラシックギターを始めた方も多かったのではないでしょう



(写真①) ギターの巨匠 ナルシソ・イエペス。10弦ギターを得意としていた。

うか。それほど楽しい映画ではないので、何度映画館に足を運ぶ人はいなかったと思いますが、音楽は確かによかった。あの当時は「禁じられた遊び」の音楽は「ロマンス」という名で呼ばれており、作曲者不祥のいわゆる「詠み人知らず」的なものだったのですが、後年、イエペスがテレビのインタビューで、「あれは私が作曲して母にプレゼントしたもののなのです」などと言い、多くの人が仰天し

たのでした。

イエペスは三歳の頃に、ホウキを手にし、ギターを弾く真似をしていたと言います。父親が「何をしているんだい？」と聞くと、「ギターを弾いているんだよ」と答えた。後年、イエペスは「自分はピアノを弾く格好もチェロを弾く格好もなかった、ギターを弾く格好しかしなかった」と述懐しております。おそらくは天命でギターを弾くようになったと言いたかったのでしょう。

さらにイエペスは楽譜を初見で弾いても、ずっと後のものも演奏自体に変わりのないなどと言っており、やはり天才なのだろうと思います。イエペスは後年、十弦ギターを弾くようになりました。これが響きがよいそうです。普通のギターは六弦です。そのような中、もう一方のギターの大御所のアンドレス・セゴビアは「弦を増やすより、指を増やせ」とイエペスを突き放したと言う逸話が伝わって

ます。両者に確執があったのでしよう。

私は初めてイエペスの演奏会に行ったのは中学生の時でした。渋谷公会堂だったと思いますが、その頃、東京にもあまり行ったことがなく、一人で東京などに行くことなどあり得なかったもので、大いに緊張したことを覚えています。

席は後の方で、「こんなんでも聞こえるのかなあ・・」と思っていました。ところが第一音が流れたときに、非常にクリアーで遠くまで聞こえ、しかも鮮明でした。クラシックギターの音はかばそく、初めて生の音を聞いた方はがっかりします。ピアノやバイオリンのような音量がなく、囁くような細かい音にたいていの人は落胆すると思います。

しかし・・イエペスは違いました。会場の一番奥まで、隅々までギターの音を運んでくれたのです。

私が最も感動したのは、グラナダス作曲の

「スペイン舞曲四番」でした。これは元はピアノ曲なのですが、グラナドス自身はギターを想定して作ったと言われ、ギターに編曲することにより、原曲以上に効果があると言われています。ハーモニックスという特殊技巧で何度も鐘の音を作り出し、スペインの片田舎の教会の鐘の音を届けてくれました。あまりに心を奪われ、頭の中に響く鐘の音に思わず帰りの渋谷駅のホームから危うく落ちるところでした。

イエペスはサービスピ精神も旺盛で、アンコールに七曲も弾いてくれました。拍手するたびにギターをかかえて出てくる姿に歓喜のどよめきに会場は包まれました。

その中で印象的なものが二つありました。

一つは「アルハンブラの想い出」。これは「禁じられた遊び」以上に有名で、知らない人はいないくらいの楽曲です。アンコールで「アルハンブラの想い出」を弾き始めた途端、喜

んだ聴衆が拍手したのです。途端、イエペスは演奏を止めました。そして会場が静かになるのを待って、弾き始めました。もう拍手する人はいません。全員、静かに曲を聴いていました。

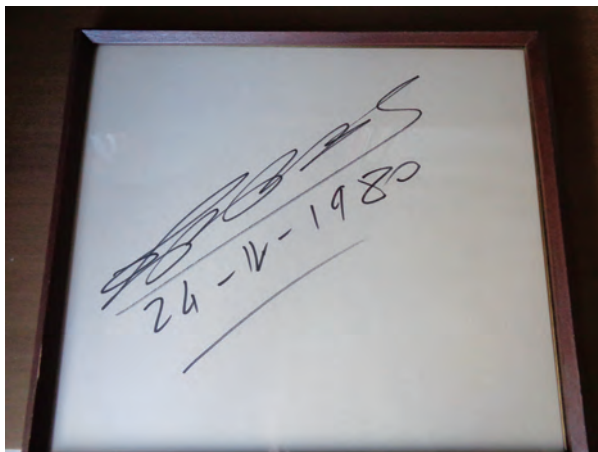
もう一つは、「ブライアンボンの行進曲」というアイルランド民謡でした。ほとんど聞こえない音量からだんだん大きくなり、その後、のけぞるくらいの音量になり、まただんだん静かになっていく・まるで砂漠で商隊がはるか向こうから近づいてきて、また遠くに去って行くという情景が脳裏を駆け巡りました。

最後のアンコールを弾く前にイエペスは日本語で、「コレガ最後デス」と語り、弾き終えるとギターの足台を自らたたみ、舞台から去って行きました。誠にサービスピ精神のかたまりのようなお方で、中学生の私はすっかり虜になってしまいました。

その後、楽屋にサインをもらいにいきました。誰もいなかったので、楽屋をノックしたところ、小原安正氏と思われる人物が顔を出しました。小原氏はセゴビアの高弟で、おそらくその当時、外国から来るギタリストのお世話をしていたものと思われます。

サインがほしいとお願いすると、ニコニコしながら小原氏は「一服してからね」と言ってくれました。楽屋から漏れ聞くところによると、その夜演奏していた日本人作曲家の武満徹の曲を全世界に広めるのだ・と言っていたとのこと。世界的なギタリストだとあらためて痛感したものでした。(写真②)

最近、イエペスのCD集、独奏と協奏曲を買いました。まだ聴いていませんが、これから昔の想い出に浸る・・これが私の最高の贅沢だと思っています。



(写真②) イエペスのサイン。楽屋まで行って書いてもらった。

定年退職を迎えて

看護師 氏 家 孝 子

私が新生園に初めてお世話になったのは昭和六十一年一月四日産休代替でした。その後病休代替・賃金職員を経て昭和六十三年本採用となり、此度定年退職を迎えることになりました。最初の配置は治療棟外科でした。佐藤つわ子婦長さんの下で初めての療養所勤務が始まりました。当時入所者様は三四〇名在籍されておりました。始めは治療棟にいらつしやる方のお顔と名前を覚えるのが精一杯でした。右も左も分からない私に先輩方や入所者様は、優しく時には厳しく細やかに指導して下さいました。当時の治療棟は各科毎に受付しており、眼科と外科・耳鼻科と複数科受

付する方もおり、待合の長椅子はいつも賑やかでした。先輩方は手際よく膀胱切除や創処置をしていました。私も指導は受けたもののクーパーでの膀胱切除は初めてで、自分には難しいなと思っていましたが「俺の皮切つてくれ、あんた達に覚えてもらわないと俺たちが困るんだ、切った傷はすぐ治る。血が出てもいいから」と背中を押して頂き、初めての膀胱切除を怖々行ったこと、昨日のこの様に思い出されます。

新生園は広大な敷地に自然豊かで木々は綺麗に剪定され、四季折々彩り豊かに私達を楽しませ癒してくれました。桜の花も見事でしたが、秋の燃えるようなドウダンに魅せられ入所者様から三十本の苗木を分けていただき、十五本が無事成長し幹は十センチ程に成長し、秋の我が家の庭は華やかです。

行事も沢山ありました。青空の下グラウンドで開催された大運動会では、手作りの衣装

を身に纏い参加した七福神の仮装行列や、入所者の皆様と共に競った風船割り等楽しかったですね。頂く景品が沢山で、台車の御用籠は一杯でした。カラオケ大会では、入所者の

方々の歌声や舞台衣装の華やかさに驚き、自分が着物で舞台に立った時には、緊張から頭は真っ白、握りしめたメモを頼りに唄い、応援して下さる声が嬉しく懐かしい思い出です。

宮城内陸地震に続き、東日本大震災は未曾有の大災害でした。発生時は第一メーブルケアセンターの一階勤務でリーダーでした。寝たきりだった入所者に駆け付け声がけしながら揺れの治まるのを待ちました。離れた場所のサーキュレーターが落下しそうだった事、低く鈍く響く地鳴りが不気味でした。師長さんが不在でしたが、安全確認を始めた直後に幹部職員の方々が、本館方向からセンターに向かって走って来る姿が見え安堵し、また人的被害が無く本当に安心しました。勤務を終え

るまで気仙沼の大島に行っていた夫を忘れていました。幸い地震の二十分前にフェリーから下船しており難を逃れていました。

最後になりましたが、三十年以上に亘り無事勤め上げられましたのは、偏に入所者の皆様や園長先生はじめ職員の皆様のお導きと感謝の気持ちでいっぱいです。本当に有難うございました。此れまでの経験を宝にこれから的人生に活かしていきたいと思えます。皆様が無事かで笑顔のある日常でありますように心よりお祈り申し上げます。

ありがとうございました

准看護師 野村 登美子

今年春に定年退職を迎えることになりました。新生園に入職したのは昭和六十年一月四日でした。三十五年勤めたとは自分でも思えず、まだまだ全てにおいて新人気分の私です。入職当時の入所者数は三百八十名程と記憶しています。五十代の方が多かったでしょうか。治療棟外科勤務でしたが、外科処置に通う方が何十人もいる時代でした。入所者様の名前を覚えないと受付をできないので、毎日毎日入所者様に教えて頂きながら、名前と顔を覚えてのが今では懐かしく思います。お陰様で、寮名、名前を全部言えるまでになりました。外科処置では、皮切り（ベンチ切除）は怖さ

と不安でいっぱいでした。切り過ぎて出血したらどうしよう、痛かったらどうしよう、と恐る恐るクーパーを持ち、足や手の皮を切りました。「皮切りができなければ一人前にはなれないよ。」と励まして頂きながら覚えしました。毎日クーパーを持つので私の右手の中指にはクーパーだこができていました。傷の処置も、軟膏は何をつけたら良いか、絆創膏はどの方向に貼れば良いか、包帯はどの順番で巻いたら良いか、全て教えて頂いたものでした。今の自分があるのは、入所者皆様から暖かく教えて頂いたお陰だと思っています。

運動会、旅行、カラオケ、文化祭等々、いろんな行事がいっぱいでした。運動会では、入所者、職員が一致団結して競技に参加し、順位を競いました。当時の活気が懐かしいです。新生園園歌も運動会で覚えました。文化祭では、入所者自身が育てた自慢の野菜や菊の花を品評会に出し、様々な賞がつけられ表

彰されました。見事な出来栄に感動しました。旅行では、不自由者旅行、長生会旅行、盲人会旅行、その他現在の何倍もありました。付添いになると、一緒に食事をしたり、見学をしたりと楽しませて頂きました。思い出をあげれば切りがないはずですが、記憶力の悪い私ですので、間違っただけは恥ずかしいので終わりにしたいと思います。

今年になり入所者数が五十数名となりました。入職当時の方々の顔が思い浮かびます。皆様一人一人にお世話になったおかげで、三十五年間勤めることができた感謝しております。最後はやはり「ありがとうございました。」の言葉しかありません。入所者の皆様、これからもお元気で日々お過ごし下さい。ありがとうございました。



定年退職を迎えて

准看護師 菅原英子

この度、三月三十一日をもちまして定年退職を迎えることとなりました。

高校卒業後、仙台市の准看護師学校に入学しました。午前中は病院で勤務し、午後は学校で机に向い勉学に励んだ二年間でした。

その後は、お世話になった病院で御礼奉公を含め、数年間仙台市で働いておりましたが、結婚をきっかけに地元に戻り縁があり、東北新生園に昭和六十二年に病休代替として勤務させて頂くこととなり今日に至ります。

勤務当初は、ハンセン病についての知識など何もなく、先輩方に教えて頂きながら、ただただ無我夢中で過ごした日々が思い出され

ます。入所者様には顔と名前が一致せず、大変ご迷惑をおかけしてしまった事も多々ありました。また外科処置の際には、クーパーを持つと手が震えてしまい、ベンチ切除がなかなか出来ず苦戦した事がありました。すると入所者様の方々から、「失敗してもいいから」、「痛くないから」、「クーパーで切った傷はすぐ治るから」等と温かい言葉をかけて下さり、勤務して間もない私にとって大変心の励みとなりました。

しかしながら、私の看護人生の長い年月に於いては、挫折しそうになった事も多々ありました。そんな時に、支えてくれたのが仲間のみんなでした。

また、入所者様には会う度に「ご苦労さん」、「ありがとう」、「また明日お願いね」と、いつも笑顔で言葉をかけて頂き、仕事への意欲へと繋がりました。

東北新生園では様々な行事があり、春の力

ラオケ大会では、スーツ姿やステキな着物姿で熱唱され、会場に美しい声が響き渡り感動したものでした。バス旅行では一緒にお食事

をしたり、施設見学をしたり、また買い物では、お土産量の多いことに驚いたものでした。

夏には花火大会、秋には運動会があり一緒に競技したことが、昨日の事のように次へ次へと走馬灯のように思い出されます。また、一般寮の定期訪問では、私達が訪問すると畑仕事や家事をしながら、いつも快く迎え入れて下さったことを覚えております。

今では、一般寮も湖畔寮のみとなり、二階建て三階建ての近代的な建物となりましたが、広大な敷地で四季折々の美しい自然の景色だけは変わらず、日々楽しむことができ、心が癒され安らぎの場所となっております。

今日までの三十二年間の月日は、皆様のご支援とご協力のおかげであり、そして、いつも温かく見守って頂いた事によるもので、無

事退職を迎えることができました。皆様には、心より感謝申し上げます。

今後の人生に於いては、皆様からの沢山の教えや経験を大切にしながら、家庭の仕事に専念したいと思っております。

最後にはなりましたが、入所者の皆様、スタッフの皆様にかかれましても、ご自愛のほどお祈り申し上げます。

長い間お世話になり、本当にありがとうございます。

詩

佐々木 洋 一 選

◇ 入 選 ◇

《朝焼け》

今 野 きよし

朝焼け雲の茜色
横に一線
伸びている
真赤に燃えて
どこまでも

夕焼雲は
お猿が衣裳を
干したから
明日は天気と
母言った

朝焼け雲は
なんと言うのか
聞いておけば
良かった
今になっては
もう遅い

何か
たとえがあるだろう
思い返して
全然浮かばない

朝日が昇る
気配して

いのもいい。思いにとどまらず、前向きに生きる
力を感じる作品です。

少しずつ
雲が薄れて
青い空

夜が明ける
今日一日の
喜びの
ひと時に

【選 評】

《朝焼け》

今 野 きよし

母への憧憬は、誰もが持つているものなので
しよう。「夕焼雲は／お猿が衣裳を／干したから
／明日は天気」という行はとても愉快で、懐かし
い。全体の持つて行き方があまり感傷的にならな



短歌

皆川二郎選

◇ 入 選 ◇

新聞に同級生の名が載りぬ水害あとの
感想述べて 今野 きよし

【選 評】

昨年は自然災害の多い一年であつたが、同級生が水害の跡に立つて感想を述べられた記事が新聞に掲載された。同級生が被害者の一人であるかどうかはわからないが、作者の被害者を思う気持ちが言外に感じられる一首である。

今野 きよし
とろとろと舌の上にてとろけおり七草粥の
味のやさしく

【選 評】

正月七日は、お節料理の食べ過ぎなどで疲れた内臓を休めるのに七草粥が食べられているが、その様子が具体的に表現されている。上の句の具体的な把握と結句の感想が照応して情景が見える。

今野 きよし

「きよしさんもう寝たのかいまだ早い」
のろすけほっほのろすけほっほ

【選 評】

子供の頃、評者の田舎では「フクロウ」のことを「ボウホウ」と呼び、祖母が、「いつまでも夜ピカリ

◇ 佳 作 ◇

今野 きよし

ふくろうに間違いないと夕方に鳴く声
聞きて嬉しくなりぬ
ほっほほのろすけほっほほのろすけほ
朝風呂につかりて眠き昼下り師走の
声を遠くに聞けり



しているとボウホウが出るぞ」と寝せられたことを思い出した。この一首は「まだ早い」と呼びかけられているので逆であるが、なんとなく微笑ましい。童話のごとき作品である。ほかにフクロウの歌二首を佳作として選んだ。リズムが良くまとめられて心地良くなる作品でもある。



◇ 入 選 ◇

おしゃれして一人ぼつりイルミネーション
今 野 きよし

【選 評】

おしゃれしてと褒められの二句と一句眺めるイルミネーションを「二人ぼつ」つりと、ぼつと言いつつた所にイルミネーションがある。褒められて照れている顔を何も言わずに鏡は笑っている。どのくらい笑ったら、一人ぼつりの照れを

感じ喜びが現れ来るだろう。鈴の音を忘れ春を待つ。

水ぬるむ今日この頃や口はずむ
齋 藤 照 雄

【選 評】

口はずむが面白いそろそろ春の足音が高らかに子供たち遊び方が日頃と違う。昔ならば竹馬やカンコ笠等、みちのくの春は水ぬるむではじまる。

天よりの恵みに感謝雪景色
今 野 きよし

【選 評】

雪景色は少ない今年度の雪景色はどこでも見られない。感謝するは、やはり天の恵みもの少々雪降りの北の神々よ恵をあたえて下さい。

◇ 佳 作 ◇

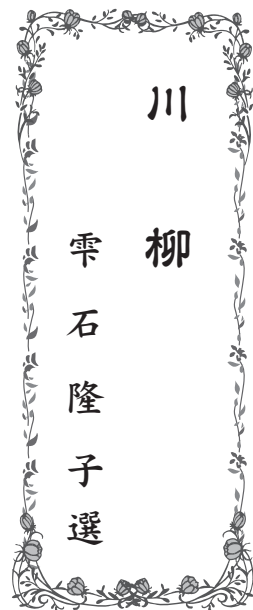
今 野 きよし

七草の香りに姿勢正しけり
冬木立隙間大きく詩が生れ
分刻み予定熟す年の暮
仕事終え後はゆっくり山眠る

齋 藤 照 雄

療の池昔は氷たんとはり
山療の土手ににっこり落のとう
豆まきの声高らかに療元氣
上げしばかりどこにいるのや声のみぞ





川柳

雫石隆子選

◇ 入 選 ◇

《人位》 今野 きよし
久方の熟睡うれし年の暮

【選 評】 良い眠りこそ健康の源。大掃除、
新年の準備と忙しく動くことが心
身の疲労となり、夜の熟睡となっ
たのであろう。熟睡後の目覚めも
すっきりと目出度い新年である。

《地位》 千 歩
十円で欲張り過ぎの初詣

【選 評】 お参りはお願い事より、神様への感
謝を表すことと言われるが、新年だ
からこそ、あれもこれも頼み事をした
くなる。しかし作者はちゃんと十円のお
賽銭で欲張りだなあ、と気づいてい
る。多くの参詣者も同様であらう。

《天位》 斎藤 照雄
ふる里と会いたくなったら目をつむり

【選 評】 幾つになってもふる里は恋し
い。まして、長期にわたってふる
里と疎遠になっていれば、その思
いも深いことであらう。なつかし
さに「目をつむる」。目の奥、記憶

の底のふる里を時々引つ張り出す。
切なく、そして暖かい佳句である。

◇ 佳 作 ◇

桜山南仙
セミ鳴いて三日の命終わります
はじめてのナースの声に赤くなり
看護の手足がにくい昨日今日

長沼蓮花
歳一ツ重ねて一ツ餅が減り
初春を手作り絵馬に願ひ込め
東向きバツケの天ぷら初笑い

今野 きよし
見るだけはきれいに見える冬景色
冬枯野眺めて心癒される
父ちゃんも母ちゃんもいる光の輪

千 歩
お帰りと七草刻む台所
初孫と歩幅合わせて散歩路
七草と母の梅干し身にしみる

斎藤 照雄
不自由度増せばふる里遠くなり
全快の夢を枕に闘病中
八氏病の俺に夜明けだ無菌証

新田中学校 「交流演奏会」

令和元年11月20日



退職を迎えて

看護助手 高橋 よし子

今年の三月に退職を迎える事になりました。私は平成三年四月に採用になりました。私が新生園の正門をくぐった当時は、なんて広い敷地なんだろう、建物がいくつもあり奥に広い場所、一般寮・不自由者棟・病棟・楓会・福祉室・本館・売店・郵便局と一つの町のようでした。すごい所に勤務するんだなというドキドキ感と不安で、私に勤まるのかと思いました。

私の職場は福祉勤務でした。初めて挨拶をした時、福祉も当時は沢山の職員がいたのでうまくやっていけるか、失敗したらどうしようとか、いろいろ考えて緊張したことを覚え

ています。そこでは、縫製の仕事で先輩と二人で入所者様から依頼されるシャツの直しや、ズボンの裾上げなどをしていました。それから二ヶ月で配置換になり、今度は福祉室の事務所で働くことになり、新生園に採用になったから緊張の連続でした。そこでは、郵便配達、薬の配達をしたり、毎日の園内放送、ゲートボールの放送など園内のすべての放送を福祉で行っておりました。当初放送をした時は、まだ入所者の方で楓会放送係のKさんが「とりまとめ放送」を行っておられ、楓会で放送が終わった後、福祉で放送を行うパターンでした。そのうちにKさんも楓会を辞められ、すべて園内の放送は福祉で行われました。

その他に、楓会行事で行っていた観桜会・旅行・文化祭・カラオケ大会・県人会行事などの接待に行ったりと、忙しい日々でした。中でも思い出に残る事は、コスモスゲートボール大会で、信子妃殿下が来た時の放送は

緊張ばかりでしたが、今思えば目の前で見られた事に嬉しさがありました。福祉にいた時は、どれもこれも一つ一つが思い出です。

それから平成二十一年四月には、またまた配置換えになり、介護員として一からのスタートです。今までは入所者様との直接の係りがなかった部署から、今度は入所者様のお世話をする現場です。

私が介護員として配属になった場所は、現在のさくらホール公園がある所に五棟建てられていた栗駒・戸伊摩・楓・松風・北斗とあつた栗駒センターでの勤務でした。最初はすべてやる事が初めてで、先輩達に聞きながら教えてもらいました。時には失敗や苦労もあり、それでもしつかり覚え先輩達の足手まといにならないよう必死でした。でも時に入所者様から「頑張れよ」と言われた時は、嬉しさとし力をもらった事を思い出します。そんな思い出も、苦労も、失敗も、何とか乗り切り、私

ありがとうございました

看護助手 白鳥利江

私は、東北新生園で働かせて頂いてまだ四年目ですが、定年の年を迎える事となりました。私が生まれたのは東京都練馬区江古田です。住んでいたのは団地で、周りには何棟もの団地があり、団地の前には公園とプールと公民館があり、団地の子供たちと遊んだり、公民館で習字や日本舞踊を習ったりしました。公園で遊んで飽きると、冒険に行きました。少し離れた場所に大きい病院の廃墟があり、そこに忍び込み、何本もの瓶に入ったホルマリン漬けの内臓を見た時には驚き、逃げ出した記憶があります。その頃、両親には池袋のとしまえん遊園地によく連れていってもらい、流れるプールが一番好きでした。

も退職を迎える事が出来、やってきて良かった、頑張つてこれた良かったとつくづく思います。これも、今までスタッフの皆様方に助けられ勤めきる事が出来、ここに定年を迎える事が出来ました。

入所者の皆様、職員の皆様、お身体を大切にお過ごし下さい。長い間大変お世話になりました。本当にありがとうございました。



父親は浅草生まれです。祖父が早く亡くなり、それからは祖母の実家に近い埼玉県本庄市に引っ越しました。祖父の実家は群馬県鬼石です。祖父は写真も無く、最近まで名前も何をしていたのかも知りませんでした。

父が亡くなり調べてみると、銀行に勤めていたようです。祖母は自宅で機織りをしていました。私も遊びに行った時に機織りを教えてもらいました。父も戦前、銀行員をし、その後飛行機を作る会社で働き、戦争に行き米軍基地で通訳をしていました。戦後は警察官になり、警視庁から都内の警察署を転勤していました。私が子供の頃、夜中でも仕事の電話で呼び出されたり、近所で揉め事があると相談されたりしていました。晩年は叙勲を受章する事が出来ました。しかし真面目な面だけでなく、幼い頃、花札や将棋を教えてもらったり、競馬場に連れていってもらいました。歌が大好きで、カラオケ教室に通い、テレビ番組のコンテストにも出ていました。亡くな

る前は家族の名前も忘れていましたが、歌だけは忘れないで曲を流すと歌っていました。父は映画のダイ・ハードに出てくるブルース・ウィリスに似てると言われてたけど、よく俳優の大滝秀治に間違えられていました。父方の親戚とは、あまり付き合いが無かったのですが、父が亡くなり初めて従兄弟と会う事が出来、話をする事が出来、不思議と抱いていた、わだかまりが無くなりました。

母の実家は埼玉県本庄市で工場とたばこ屋を経営していました。大勢の従業員と家には丁稚奉公がいたようです。母が学校に通っている時に雨が降ってくると、丁稚奉公が傘を持って来てくれて、それが嫌だったと言っていました。祖父が亡くなった後、工場は無くなり、たばこ屋だけになりました。たばこ屋と言っても、今のコンビニのように何でも売っている雑貨屋でした。私は子供の頃は夏休み冬休みと遊びに行き、従姉妹たちと飴玉を貰ったり遊ぶ事が楽しみでした。店の大きな火鉢の前に座って店番をして、お手伝いを

する事も楽しみでした。たばこ屋は自宅と兼ねていて、その頃は大変古くて、幼い頃は夜寝る時に天井を見るとお化けがいるようで、怖かったです。離れにも家があり、少し新しく大きくなると、そこで従姉妹たちと寝るようになり怖くありませんでした。今では、たばこ屋も無くなり、寂しく思います。父が昨年亡くなり、自分のルーツ祖先の事は知らない事が多く、生前にもっと聞いておけば良かったと後悔しています。私は東京から千葉県に引っ越し、結婚してからは神奈川県の川崎・横浜・横須賀からここ宮城県に縁あって来ました。三月に還暦祝いを兼ねて、高校のクラス会が千葉県であり、参加する予定です。皆に会うのは四十年ぶりくらいで、会っても分からなくなっているかもしれません。楽しみです。

こちら新生園で働く事が出来たのも、何かのご縁と思い、感謝しております。これから入所者の皆様方々どうぞご自愛くださいませ。ありがとうございます。

定年退職にあたり

洗濯長等職員 石川 和彦

この度、定年退職を迎えることになりました。私が東北新生園に就職するきっかけは、昔、新生園で仕事をしていた私のお祖父さんの薦めでした。昭和五十六年十二月に福祉室の自動車運転手兼作業手として配属され、仕事内容は特に一般寮の作業が多くありました。病棟、不自由者棟、一般寮の配飯、残飯回収、ゴミ収集焼却、園内の草刈り等環境整備など、当時、園内の道路は砂利道が多くスコップでトラックに碎石を積んで道路に敷いたり、道路脇には排水用のU字溝入れなどもしました。冬前には、一般寮の煙突式ストーブの設置。屋根にハシゴで登って煙突取り付けが慣れるまで怖かった記憶があります。

園内では、いろんな行事が行われました。

入所者の手塩にかけた盆栽や菊の展示会、野菜品評会も行われ準備の手伝いをさせていただきました。秋にはグラウンドで大運動会が盛大に行われ、毎年一緒に入所者の皆様と楽しんだのもいい思い出です。

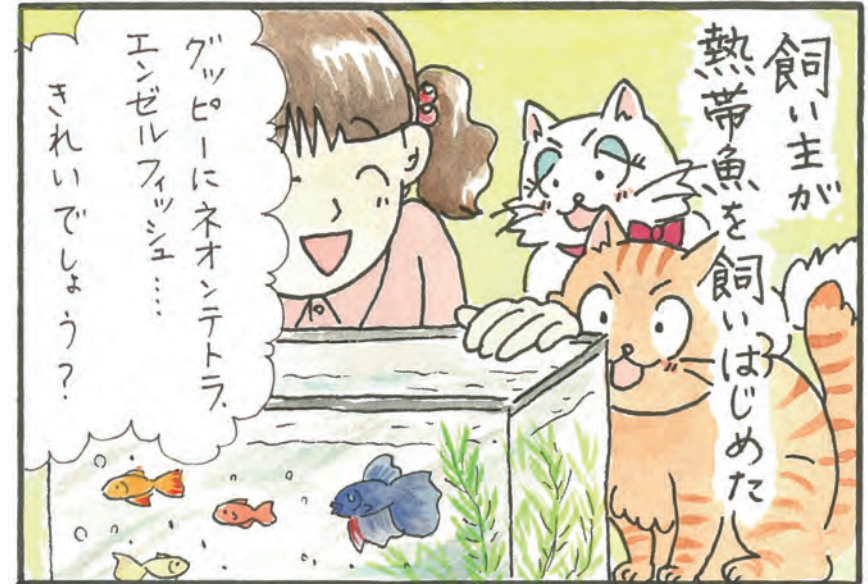
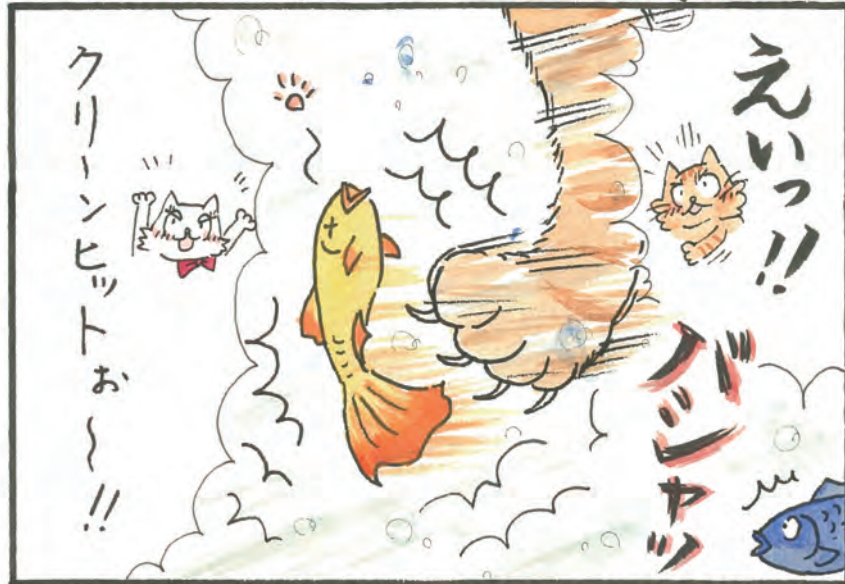
平成八年四月から庶務班の洗濯場に移動になりました。おもに入所者の衣類と医療スタッフの白衣、リネン類の洗濯仕上げです。当時は洗濯機で洗って濡れたまま脱水機に移しますが、特に厚手の毛布など多い時はなかなか重かったですね。現在は洗濯から脱水までこなせる全自動洗濯機を導入してもらいました。何とか同僚に励まされ協力しあって務めることが出来ました。東北新生園に就職し長いようで短かった三十八年です。振り返り今思えばあつという間な感じがします。

最後になりますが、入所者の皆様をはじめ職員の皆さんの支えで何とか定年まで勤めることが出来ました、とても感謝しております。どうか皆様お体を大切に元気で過ごして下さい。お世話になりました。

熱帯魚

しろちゃん とらおくん

北村 小蝶



東北新生園イルミネーション点灯式

令和元年12月2日

